



特産品を買って宮古島へ行こう！

地ビールフェスタに宮古島産地ビール登場

津山の夏の風物詩・地ビールフェスタに今年は宮古島産地ビールや宮古島産の冷凍マンゴーをたっぷり使ったデザートが登場します。

宮古島産地ビール

宮古島デザート

※写真はイメージです



宮古島とっりばビール
(コーラルエール、パッションフルーツエール)



フローズンマンゴー&
アイスクリーム

フローズンマンゴー入り
フルーツジュース

第17回全日本地ビールフェスタ in 津山

とき 7月12日(土)、19日(土)、26日(土)、8月2日(土)、9日(土)午後4時～9時

ところ ソシオー番街、アルネ・津山東広場

岡にぎわい商人隊(まちなかさろん再々内) ☎23-2250

姉妹都市縁組50周年 記念式典開催

宮古島市から関係者を迎え、これまでの両市の交流を振り返り、100年の交流を目指した未来宣言を行います。ご参加ください。

とき 8月2日(土)午後3時～4時
ところ ベルフォーレ津山(アルネ・津山7階)

内容 エイサー演舞、和太鼓演奏、小学生による未来宣言



岡秘書広報室 ☎32-2026

な かよしスタンプラリーが始まりました

市内のスーパーマーケットなどで販売される宮古島産の農産物や特産品に貼られたスタンプシールを集めて応募すると、宮古島の関連商品などが当たります。

とき 7月1日(火)～8月31日(日)正午

ところ 市内のスーパーマーケット、直売所などの小売店
(黄色ののぼりが目印)

賞品 特賞…宮古島市旅行クーポン券(2泊3日)1人

A賞…(特産品詰め合わせ) 5,000円相当 5人

B賞…(特産品詰め合わせ) 3,000円相当 10人

C賞…(特産品) 1,000円相当 20人 総計36人

応募に必要なシール枚数 特賞…10枚、A賞…7枚、

B賞…5枚、C賞…3枚



のぼり

応募の流れ

①対象商品を購入

黄色ののぼりが設置してある市内のスタンプラリー取扱店で、シールが貼ってある商品を購入



スタンプシール

②応募はがきを入手

スタンプラリー取扱店で入手

③応募する

希望する賞品の応募に必要な枚数のシールを応募はがきに貼って事務局に送付、または取扱店に設置されている応募箱に投函

締め切り 8月31日(日)正午必着または投函

※8月31日(日)に抽選会を開催します。当選者の発表は賞品の発送をもって代えます

※取扱店など、詳しくは市ホームページをご覧ください

岡Next100実行委員会事務局(新産業創出課内) ☎32-2178

より深まる交流を続けたい



マンゴー農園経営者
宮古島市教育委員長
建設コンサルタント社長
佐平 博昭さん(宮古島市)

宮古島市との姉妹
特別企画
都市縁組50周年

きらめく
宮古島人

平良第一小学校PTAや宮古青年会議所に在籍していた時、津山市を訪れ交流をしたことがあり、現在、宮古島市の特産品・マンゴーを栽培している佐平さんにお話を伺いました。

マンゴー栽培を始めたきっかけは？
約30年前、宮古島でもまだマンゴーがあまり知られていなかった時代に、マンゴー栽培を始めた父親の手伝いをしたことがきっかけです。また、幼い頃から、土と自然に親しむ農業に魅力を感じていました。

わたしは、平成17年から、建設コンサルタント業の傍ら複数の品種のマンゴー栽培を1万㎡のパイプハウスで本格的に始めました。

マンゴー栽培を通じて感じることは？
宮古島は台風の常襲地帯です。台風は、恵みの雨をもたらす反面、収穫時期には、果実の落下など、大きな被害をもたらすこともあります。作物づくりの大変さを痛感しています。

わたしが栽培しているキーツという品種は、通常のマンゴーより大きく、強風でも木から落ちません。熟しても落果しないので「落ちないマンゴーで合格祈願」としてテレビで紹介され、全国の受験生を持つ親から問い合わせが殺到しました。子を思う親の気持ちに、一役買えたことは、生産者として励みになります。

津山のイメージは？
40数年前、わたしが平良第一小学校に通っていた時、宮古島は台風による甚大な被害を受けました。その時、津山から貴重なエンピツやノートなどの文房具が送られてきたことは、今でも強く記憶に残っています。当時は多くの人が、津山を特別なまちとして、親しみを持っていただいています。わたしは、その後も平良第一小学校のPTAや宮古青年会議所の活動を通じて津山の皆さんと数多く交流できていることに、不思議な縁を感じています。

津山市へは何度か訪れていて、歴史・文化の薫りを漂わせた静かな下町と思っています。

今後の両市の交流については？
津山市と宮古島市との交流は、行政だけでなく、教育機関や経済団体も縁組を結んでいる、全国的に見ても数少ない例だと思います。

しかし、50年の歳月が経ち、少しずつ交流が薄れてきているように感じています。今後の交流100周年に向けて、姉妹都市交流を地域の活性化に結び付けるために、意見交換・情報交換する場を、これまで以上に持つことが必要だと思います。

津山市、宮古島市の絆を次世代に繋げるために、わたしたちは、積極的に交流や協力をしていきたいですね。

8月に津山で行われる姉妹都市縁組50周年記念式典には参加したいと話す佐平さん。皆さんも一度、宮古島に足を運んでみませんか。



マンゴーの栽培をする佐平さん